

# 山口日独協会ニュース

## Neuigkeiten der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Yamaguchi

### Nr. 1 2 4, März 2016

山口日独協会 〒753-0083 山口市後河原94  
Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yamaguchi:  
Ushirogawara 94, Yamaguchi, 7530083, JAPAN  
TEL/FAX : 083-920-2965  
<http://www.jdg-yamaguchi.jp/> [info@jdg-yamaguchi.jp](mailto:info@jdg-yamaguchi.jp)

## 協会からのお知らせ

### 1 2015年度総会のご報告

山口日独協会第25回定例総会および懇親会が、平成28年2月14日(日)、山口市の湯田温泉ユウベルホテル松政にて開催されました。

議事に先立ち尾崎馨さんを議長に選出し、議事へと移りました。

議事の内容は、平成27年度事業報告・会計報告・会計監査報告、28年度事業計画・予算案です。全員賛成で、承認されました。(資料を同封しています)

新年度の主な行事は以下のとおりです。

- ・4月から ドイツ語会話教室の開講
- ・5月15日 リンデンバウム・ピクニック 山口市亀山公園
- ・5月22日「フルーツ&ピアノ・ジョイントコンサート」山口市ポルシェセンター山口
- ・10月22日「アルネ・トルガー・ピアノ・コンサート」山口県旧議会棟議場
- ・10月2~3日 Deutsches Fest(ドイツ祭) 山口市一の坂川周辺

総会に引き続き記念行事が催され、山口大学生山根彩奈さんから「ドイツでの留学生活」と題して講演を行っていただきました。山根さんは、3日前にドイツから帰られたばかりで、ドイツのホットな情報が聞けました。

記念行事の後は会場を移し、懇親会を開きました。乾杯の音頭は、この日一番遠く下関市から来られた山本達夫さんをお願いしました。会員同士の近況報告、ドイツへの話題などドイツワインなどを楽しみながら、歓談の場となりました。



## 2 行事のご案内

### (1) ドイツ語会話教室の開講

初級・中級講座を下記の日程で開講（祝祭日及び8月は休講）

- ・会話Ⅰ初級～ この講座は、ドイツ語の基本より学習します。

開講日時：平成28年4月22日(金)午後7時から、全10回

以後は、原則として第2・第4金曜日

講師：渡辺アンゲリカ先生（ドイツ人語教師。日本語は堪能）

- ・会話Ⅱ中級～ この講座は、基本的な学力をもつ人のための更なる学習です。

開講日時：平成28年4月20日(水)午後7時から、全10回

以後は、原則として第2・第4金曜日

講師：エムデ・アンゲリカ先生（ドイツ人語教師。日本語は堪能）

\*場所は、両教室とも会員嶋田日出夫さん宅（山口市前町2-11、「出入り口は、旧道沿いでコミュニティ・バスの停留所（前町）と郵便ポストが目印です。」

\*受講料：会員;8,000円(10回分)・一般;10,000円(10回分)

\*その他：受講料は開講初日にお支払。

途中から受講の場合は受講開始日から受講料1回分×残りの開講回数。

家族会員、および学生には特典。一回に限り無料で見学できます。

\*お問合せは、理事尾崎馨さん(083-922-6467)か、上原理事長へご連絡をお願いします。  
メールでも結構です

### (2) 「リンデンバーム・ピクニック」

- ・日時：5月15日（日）11時～

⑨総会では間違って8日とお知らせしました。申し訳ありませんでした。

- ・場所：山口市亀山公園山頂の菩提樹の下にて

一昨年、日独交流150周年を記念し、友好のあかしとしてドイツ連邦共和国大使館より菩提樹を寄贈され、亀山公園に植樹しました。この菩提樹を見守るためにも、毎年5月第3日曜日にリンデンバーム・ピクニックを行っています。ご自分のお弁当を持ってぜひお越しください、お待ちしております。飲物は、日独協会でご用意します。

### (3) 「フルーツ&ピアノ・ジョイントコンサート」

- ・日時：5月22日

- ・場所：山口市ポルシェセンター山口

昨年に引き続いての開催です。詳細は次号会報でお知らせします。

## 3 会員の皆さんからの投稿、情報提供

(1) 尾崎馨さんからの投稿です。昨年7月山口日独協会実施のドイツ・ツアーの紀行です。

3ページ目以降に掲載しています。

(2) 法人会員オーバーヴィーゼから、トリアー市のシュミットさんのSMW社が2015年Best Sparkling wine producer受賞された報告を次々ページに掲載しています。

(3) 総会出欠ハガキに書いていただいた会員の方からの近況報告等をお知らせします。

- ・宮崎忠・ゆふ〜日独協会ニュースをいつもありがとうございます。参加行事が少なく、もうしわけございませんが、楽しく読ませていただいております。
- ・藤原佳子〜会報を楽しく読ませて頂いております。
- ・富田博之〜皆様にどうぞよろしくお伝えください！！
- ・山根洋平〜相変わらず土・日は休みになりません。競馬場へ行ってみたい方はお声をかけてください。
- ・徳富信恵〜ご無沙汰しております。あいにくこの日は所要の為参加が叶いません。ご盛会をお祈りしています。今年もメサイア等よろしくお願ひ致します。
- ・杉山さくら〜大学卒業とともに中断してしまっていたドイツ語学習を、3年ぶりに再開しました。楽しく勉強を続けたいと思っています。
- ・中尾厚子〜又々、上京で残念です。店内改装し、ドイツの絵を沢山展示しております。おついでにお立ち寄りください。
- ・岩田崇乃〜ベトナムのユフを楽しみました。雨季の雨は本当にすざましかったです。
- ・佐伯伸治〜父の看病のため今回は残念ながら欠席とさせていただきます。
- ・斉藤喜美子〜今年度もよろしくお願ひします。

#### (4) 「秋吉台の響きコンサート」

- ・日時：4月23日(土) 15:00開演 (14:30開場) ・場所：秋吉台国際芸術村
- ・チケット：一般2,500円、大学生以下1,000円 \*当日券は共に500円増し  
日本を代表するトップアーティストが今年も秋吉台国際芸術村へ集まります。今回で20回目の公演となりました。山口日独協会も後援しています。(チラシを同封)

#### (5) 「スペイン国立管弦楽団 山口公演」の開催

- ・日時：7月31日(日) 17時開演 (16時開場)
- ・会場：山口市民会館 大ホール  
(チラシを同封)

\*お問合せは、各理事か上原理事長へご連絡をお願いします。メールでも結構です  
上原 (TEL:083-920-2965,090-5269-4941・メール:info@jdg-yamaguchi.jp)

## <会費納入のお願い>

会費：法人；10,000円、一般；2,000円、家族；1,000円、学生；1,000円  
新年度の会費納入を同封の郵便局振込用紙にてお願いします。  
総会等で既にお支払いの方は結構です。支払い方法は以下のとおりです。  
山口銀行の場合、皆さんの通帳からATMを利用されると振込手数料は無料です。  
手数料節約のご協力をお願いします。

### 【会費納入方法】

振込先：郵便局 口座番号；01550=9=26140 加入者名；山口日独協会  
：山口銀行県庁内支店 口座番号；6171166 加入者名；山口日独協会

## SMW社の2015年Best Sparkling wine producer受賞報告

オーバーヴィーゼ

総会、ドイツ祭り、クリスマス会等で何時も皆さんに愛飲して頂いているモーゼルワインのシュミットさんから嬉しい連絡がありましたので、ご報告します。

SMW社は、モーゼル地区トリアー市にある中核的なワイン醸造元です。社長は、山口にもワイン試飲会に5、6回お見えになりましたシュミットさんです。こちらで生産されるゼクトSekt（スパークリングワイン）は、詩人の夢シリーズで特に有名です。詩人とはゲーテの事で、彼が世界平和、ヨーロッパ融合を夢にした絵画がラベルとなっています。この度SMW社は、2015年のBest Sparkling wine producerに選ばれました！言い換えればスパークリングワインにおける世界の最優秀生産者です。

これは年に4回行われる世界最大のワインの国際コンクール(お馴染みのBerlin, Berlin, Portugal, Asia Wine Trophy)で、金賞を受賞したシャンパンも含む世界のスパークリングワインの醸造所の中から世界一の称号を勝ち取ったということです。

ちなみにスパークリングワインの部門は10haまで、50haまで、50ha以上とカテゴリーに分かれており、SMWは50haまでの部門で最優秀生産者に選ばれました。今までにも3回ほど受賞したことがあります。2015年は4つの大会で計15000種の世界中のワイナリー自信作スパークリングワインが出品されています。

この認定は、SMWゼクトが日本で名高いシャンパンをも超えているという証にもなるのです。

余談ですが、ごく最近までスパークリングワインは、一般的にシャンパンと呼ばれていました。正確にはシャンパンは、フランス・シャンパーニュ地方産のスパークリングワインです。今ではシャンパーニュ産のみが、シャンパンと言われます。

それ程シャンパンが、代表的で高品質なスパークリングワインのあかしだと言えます。ドイツではゼクトSektと言いますが、今回の受賞は、SMW社のゼクトが、シャンパンを抑えて高い評価を与えられたこととなります。

認定書 ↓





↑ ミルテンベルクは「メイン川の真珠」とも言われる。この街のマルクトプラッツ(中央広場)はドイツで最も美しい広場でもある

## ドイツぶらり街歩き

尾崎 馨

日独協会の皆さんと去年の夏、ドイツのバイエルン自由州フランケン地方へ旅しました。旅行会社のパックツアーとは違い、1箇所に腰を落ち着けて見て回る滞在型ツアーです。1つのホテルに1週間滞在し、そこを拠点にチャーターしたバスでブドウ栽培農家を訪問し、ワイン祭りにも参加。中世の街並みや古城、世界遺産などを見学、メイン川クルーズを楽しみ、ドイツの自然と文化の香りに触れました。ワインやビール、ドイツ料理を堪能したことは言うまでもありません。旅行を企画し、現地を案内してくださったアンゲリカ・エムデさんのお蔭でドイツの人びとも触れ合うことができたのが何ととっても旅の収穫であり、醍醐味でもありました。

ツアー一行が1週間ほど滞在した街は、ライン川支流のメイン川河畔にあるマルクトハイデンフェルトといい、この街の歴史は西暦855年にベネディクト派が修道院を建てたことから始まります。中世ヨーロッパの諸都市は、外敵による攻撃を堅固な城壁で防いだのが特徴ですが、当地でも1420年に街の周囲に城壁が築かれました。ところが、近代に入ると多くの都市では城壁が取り壊されていきました。例えば、オスマン・トルコによる2度にわたる包囲にも耐え抜いたウィーンの城壁は現在、その跡地がリンク(環状道路)に姿を変えています。マルクトハイデンフェルトでは、なんと城壁は一行が宿泊したホテルの外壁の一部となっていました。

観光ガイドボランティアのシュライアーさんの案内でマルクトハイデンフェルトの街

を歩きました。市の中心部は500m四方ぐらいでしょうか、歩いて見て回ることができます。人口1万2千人弱の小さな街ですが、映画館があるのには驚きました。商店街は活気にあふれ、オープンカフェでは、真夏の昼下がりといっても日本のように蒸し暑くはなく、人びとはお茶（ビール、ワイン）を楽しみ、時間がゆったりと流れているようです。観光客が押し寄せることもない、ごく普通の地方都市ですが、このにぎわいや存在感はどこから来るのでしょうか。

次に訪れたのは、ミルテンベルクという街です。人口は9千人と少ないながらも、旧市街には14世紀から16世紀にかけて建てられた木組み造りの歴史的建造物が数多く残り、中世の街にタイムスリップしたような感覚になります。その美しさから「メイン川の真珠」とも言われています。石畳の路上では、若者たちが三重奏（フルート、オーボエ、ファゴット）でモーツァルトをライブ演奏しており、さすがにクラシック音楽の本場です。

この街には「ドイツで最も…」というものが二つあります。一つは「ツム・リーゼン（巨人亭）」です。ここは12世紀に営業を始めたドイツで最も古いホテルで、神聖ローマ帝国の皇帝フリードリッヒ・バルバロッサ（赤髭王）をはじめ、王侯貴族や大司教らもここに泊まったそうです。もう一つは街の中心にあるマルクトプラッツ（中央広場）です。ここは、ドイツで最も美しい広場（前ページの写真）と言われています。私たちが訪れたときはちょうど、近くの教会で結婚式があったらしく、100人ぐらいの人びとがぞろぞろとこの広場に集まり、新郎新婦を真ん中にして、噴水と木組みの家をバックに記念撮影を行い、空に向けて色とりどりの風船を放していました。

ロマンティック街道の起点であるヴェルツブルクでは、世界遺産のレジデンツ（大司教館）を見学しました。バルタザール・ノイマンの設計による18世紀**バロック建築**を代表するヨーロッパ屈指の宮殿です。建物には様々な部屋がありますが、中でも有名なのは「階段の間」です。柱が1本もない広大な吹き抜けは、大司教の威光がしのばれます。階段をのぼりながら見上げる天井の**ティエポロ**作の世界一大きな**フレスコ画**に圧倒されました。この吹き抜けは、常識外れの設計で、当時は「設計ミス」とか「絶対に崩れる」などと酷評されましたが、ノイマンは「砲弾を打ち込まれても崩れない」と反論したそうです。事実、**第二次世界大戦**の空襲でもこの天井だけは残り、その他は瓦礫の山と化しました。破壊され廃墟となったレジデンツが時間をかけて元どおりに修復される過程の写真が館内に展示しており、ドイツ人の粘り強さと歴史を大事にする気質がうかがえます。

この街で見たかったのは、マリエンベルク要塞です。大学時代にゼミの原書講読で読んだ「ドイツ農民戦争」に出ていたからで、40年来の夢が叶いました。メイン川岸からの高さは100mぐらいでしょうか、丘の上にそびえる要塞は、農民団と諸侯軍との激しい攻防戦などなかったかのように静かにたたずんでいました。

著名な彫刻家にして、ヴェルツブルク市長でもあった**ティルマン・リーメンシュナイダー**は、農民団を支持したため、マリエンベルク要塞で拷問を受けた後、利き腕をへし折られて芸術家生命を絶たれ、失意のうちに亡くなりました。彼は忘れ去られていた時期もありましたが、現在では人気のある彫刻家の一人です。彼の作品は、ドイツ中世彫刻の最高峰としてドイツ各地に残っています。メイン川クルーズの折、フォルカッハ近くの「ブドウ畑の聖母マリア巡礼教会」を訪れましたが、ここにも彼の作品があります。内部に入り天井を見上げると、大きな木彫りのロザリオの中で幼子イエスを抱く聖母マリア像が私たちを出迎えてくれました。

今回のツアーでいちばん思い出深いのは、ブドウ栽培農家を訪れたことです。ワインは飲んだことはあっても、生産の現場を見るのは初めてのことです。訪れたのは、ホムブルク村のアルフレット・ブランクさんとエーレンバッハにあるデピッシュ農場の2箇所です。見学した後は、ワイン祭り（右の写真）に参加したり、地下貯蔵室ではさまざまなワインの試飲を楽しみました。



↑ ホムブルク村のワイン祭りにて（写真中央がアルフレット・ブランクさん）

ブランクさんとデピッシュさんからはブドウ栽培の苦労話やワイン造りへの思いを聞きました。

メイン川沿いのブドウ畑は、貝殻石灰岩の土壌で、ミネラルが多く含まれています。このため、フランケン・ワインは、フルーティーでミネラル豊富、独特な味覚をしているのが特徴です。美祿市秋芳町嘉万のナシも同様の理由でおいしいのでしょうか。

二人の話で特に印象深かったのは、150年前、ブドウ産地全滅の瀬戸際に追い込まれながら、危機を乗り越えて今があるということです。原因は、Reblaus（レプラウス：日本名ブドウネアブラムシ）によりブドウの木が衰弱し枯死していったからです。1864年、フランスで発生した被害はヨーロッパ全域へ広がり、ドイツでもブドウの木を焼却したが、効果はありませんでした。この害虫に耐性を持っている苗を移植することで、ようやく危機を克服しワイン産地が復活したのです。そんなわけで私たちは今、おいしいワインを飲むことができるのです。

さて、日本では地方都市に元気がないように思われます。郊外型ショッピングセンターができて、商店街はシャッター通りとなって寂れています。一方、ドイツは歴史的に地域を重視した地方分権型の社会であり、地域循環型の経済です。人口1万人程度の小都市でさえ活気にあふれています。しかも、街はコンパクトシティであり、都市機能は中心部に集積され、コストも低く抑えることができます。ドイツの街は、人口減少と高齢化社会の進む日本の地方都市が元気になる街づくりのヒントとなるのではないのでしょうか。